

新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

2021.3.6 作成

1. はじめに

・本ガイドラインは第47回北信越フットボールリーグの開催にあたり、関係者のすべてが健康のもとに成り立つことを認識し、常に感染防止と自己管理に努め、安全なリーグ運営を行うことを目的として作成された指針である。

2. 選手および組織に求められる感染予防対策

- (1) 毎日の健康チェックと行動記録
- (2) 手指衛生の励行
- (3) 出来るだけ人ごみを避ける
- (4) 施設の空調・換気状態の把握と可能な対策
- (5) ロッカー室・シャワー室、ベンチなどでの濃厚接触の回避
- (6) ロッカー室・シャワー室、ベンチ、トイレなどにおける環境消毒
- (7) 選手、チーム関係者、家族に対する教育・啓発と意識改革
- (8) リーグ全体での情報共有体制
- (9) チーム連携医療の選定と連携体制の確認

3. 会場運営に対する感染予防策

- ① 試合観戦者の上限は、会場収容人数の50%とする。ただし、施設管理者が独自に基準を設けている場合はそれに従う
- ① スタジアムのゾーン分けをすることで感染リスクを抑え、感染者が出た場合の影響範囲を限定する。とくに選手、チームスタッフと接触する人数を最小化する
- ② 競技関係者、運営・メディア関係者、来場者のゾーン分けを行い、お互いの接触を避ける動線管理を行う
- ③ マスクを着用する
- ④ 手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ⑤ 会場入口に消毒液を設置する
- ⑥ ドアはできるだけ開けたままとする。ドアノブに触れる頻度を下げるため

- ⑦入場前に体温を測定し、37.5 度以上の場合、入場をお断りする
- ⑧過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は 当該在住者との濃厚接触がある場合、入場をお断りする。
- ⑨待機列が「密」にならないよう工夫する
- ⑩飲食・グッズの販売・当日券販売は容認される。アルコール販売は容認されるが、提供有無や提供方法は主管クラブが判断する。提供の際は、応援マナーの遵守の呼びかけを強化する。

4. サッカー観戦の観客に対する感染予防策

- ①発熱、咳、倦怠感、咽頭痛などがみられる場合には観戦をご遠慮いただく
(心臓、肺などに基礎疾患がある場合も同様)
自分を守るだけでなく、多くの仲間、選手を守ることを理解の徹底
- ②入場時・退場時の濃厚接触を減らすための工夫（ゾーニングなど）待機列が「密」にならないよう工夫する
- ③入場時に体温を測定し、37.5 度 以上の場合、入場をお断りする
- ④過去 14 日以内に政府から入国制 限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は 当該在住者との濃厚接触がある場合入場をお断りする。
- ⑤非接触型温度測定器、サーモメーター等を利用したスタジアム入場時の体温チェック（37.5℃以上）
- ⑥スタジアムではマスクを着用する。熱中症対策でマスクを外す場合は、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m 、咳エチケットに十分配慮する）を確保する。
- ⑦スタジアム内でのマスク着用の呼びかけ
- ⑧観戦時の濃厚接触を減らす工夫として、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保し、1 席空けて座る。
- ⑨手指消毒剤の設置
入場・退場時の手指消毒の推奨など

手洗い、手指消毒をこまめに行う

- ⑩ファンから手渡されたペン、色紙、ボールなどでのサインを行うファンサービス、ハイタッチなどを行わない

⑪応援について

(1) 容認される行為は以下の通りです

(例) 拍手・手拍子

(例) タオルマフラー・ゲートフラッグなどを掲げる

(例) 太鼓、応援ハリセン等、自席で叩ける 鳴り物の使用は、主管クラブが使用可否を判断する。

- ・ただし、メガホンの使用は除く。また、スタジアム備品を叩く行為は厳に慎む
なお適用にあたっては、ホームとビジターは同条件で適用する
- ・使用場所など、適用の詳細は主管クラブの試合運営ルールに従う

(2) 禁止される行為は以下の通りです

声を出す応援

(例) 指笛・チャント・ブーイング

(例) トラメガ・メガホン・トランペット など道具・楽器を使うこと

人と接触する応援

(例) ハイタッチ・肩組みなど

「密」を作る応援

(例) お客様がいる席でのビッグフラッグ※ただし、お客様がいない席に掲出する場合は容認される

(例) 大旗を含むフラッグを振る

(例) タオルマフラーを振る、もしくは回す

5. チーム選手、審判員、試合運営に対する感染予防対策

(1) チーム及び審判員全員の求められること

- ①無理な来場は、勇気をもって、見合わせる
- ②体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
- ③同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ④握手、抱擁などは行わない
- ⑤マスクを着用する（アップ中またはプレー中を除く）
- ⑥手洗い、手指消毒をこまめに行う

(2) 試合当日の体温測定

- ①チーム責任者は、試合当日、選手及びスタッフの体温を測定し、リーグ指定の記録用紙（様式：利用者名簿）に記入し、会場到着後すみやかに本部に提出する
記録用紙については、全日程が終了するまでホームチームで保管する事
- ②ホームチーム責任者は、審判員、試合関係者の体温を測定し、健康状態を確認したうえで、リーグ指定の記録用紙（様式：利用者名簿）を記入し本部に提出する
記録用紙については、全日程が終了するまでホームチームで保管すること
- ③選手及びスタッフは試合前 2 週間における健康状態の確認と検温を行うこと
記録用紙の様式は（参考添付：健康チェックシート）各チームで様式が既に決まっている場合はそれを利用して構わない
記録用紙については、事務局に提出を求めるものではないが、感染者またはその疑いがあった場合に保健所等に提供することがある
記録用紙は全日程が終了するまでチームで保管すること

(3) 更衣室

- ①更衣室内でも社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する

- ②更衣室内では、必ずマスクを着用する
- ③シャワーは、一つずつ間隔を空けて使用することを原則とする。人数が多いときは時間をずらして使用することで、人と人の間隔（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する。
- ④更衣室の滞在時間を、できるだけ減らす
- ⑤タオル、飲水ボトル等を共用しない

(4) 試合前のマッチコーディネーションミーティング

- ①社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する
- ②会場の換気に留意する
- ③時間短縮に努める（ユニフォームの事前決定）
- ④参加人数を制限して行うこと（5 名程度）
参加者は、マッチコミッショナー、主審、両チーム監督、ホームチーム担当者を原則とする

(5) 選手 および 審判団のピッチ入場～キックオフ

- ①両チーム選手及び審判団は整列の上、一緒に入場する
- ②入場前は社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つよう十分配慮する
- ③ピッチ上で整列し会場のみ挨拶を行い、相手選手及び審判への挨拶、握手等は行わない
- ④リスペクト旗、クラブ旗、エスコートキッズは入場動線を選手と別にするなど密を避ける工夫をすること、およびピッチ上で選手と社会的距離を取れていれば実施することは容認される
- ⑤ピッチ周辺での来賓、スポンサーのセレモニーについては、演出時に社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つスポンサー関係者が参加することは妨げない
- ⑥チームの集合写真撮影は認められる。但し、掛け声、肩を組むことは禁止とし、隣や前後の選手同士がぶつからないよう注意する。
- ⑦ピッチ上で円陣を組むことは行わない

⑧得点時にハイタッチ、抱擁などは行わない

(6) チームベンチ

①密にならないように工夫する

②入り切らない場合は、ベンチを増やして対応。または、主審および両チームで事前に合意した場所で待機

③ベンチの選手 および チームスタッフは、マスクを着用する。但し、テクニカルエリアで指示を送る際は、マスクを外してよい

④不要な会話・接触は控える

⑤飲水ボトルの共用は避ける

(7) ハーフタイム

①選手、チームスタッフ、審判員等の引き上げ動線が混雑しないよう、予め確認する

(8) 試合終了時のセレモニー

①チームおよび審判団はピッチ中央に集まり挨拶を行う。但し、社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つよう十分配慮する。その場合、握手は行わない

②本部ベンチ、両チームベンチへの挨拶は行わない

③チームとして集まってファン・サポーターに挨拶する等を行う場合、社会的距離を確保すること。握手、ハイタッチ、抱擁は行わない

④試合終了後（試合前）のセレモニー、イベント等は容認するが、開催有無、開催方法は主管クラブが判断する

(9) 試合終了後の取材

①監督及び選手の取材は社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を保つよう十分配慮する

②マスクを着用する

③取材の対応は短時間で行う

6.選手および家族も含めたチーム関係者に疑い例が出た場合の対応

- (1) 医療機関に報告
 - ・ 医療機関への連絡
- (2) 各地域の医療機関のアドバイスにもとづく濃厚接触者の洗い出し
 - ・ 濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理
- (3) PCR 検査および医療機関受診対象者の確認
 - ・ 健康チェック表、自覚症状を確認の上、PCR 検査検体の採取
- (4) チーム運営委員は北信越フットボール事務局に状況を報告すること
- (5) 事務局は状況を確認したうえで、北信越社会人連盟と今後の対応を協議すること
- (6) 37.5℃以上の発熱が確認された場合、当該選手は症状が確認された日から7日間、練習・試合等の活動を取り止め、経過観察を行うこと。ただし PCR 検査を行ったうえで陰性と判断された場合は、練習・試合等の活動を許可するものとする。

7.選手および家族も含めたチーム関係者にPCR検査の結果、陽性反応が出た場合の対応

- (1) 医療機関に相談する
 - ・ 濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理
- (2) 医療機関受診の対象者の確認
 - ・ 健康チェック表、自覚症状を確認の上、医療機関受診対象者の確認
- (3) 陽性反応だった本人は入院もしくは自宅療養。濃厚接触者も自宅待機
 - ・ その他の選手やチーム関係者は原則、チームの動きに従い、チームは予定どおりに試合・練習をする。チーム全体の活動はこの時点では停止しないが、検温等の健康チェックをより厳正に実施する
- (4) チーム運営委員は北信越フットボール事務局に状況を報告すること

(5) 事務局は状況を確認したうえで、北信越社会人連盟と今後の対応を協議すること

8. 選手およびのチーム関係者以外の関係者から疑い例、陽性判定が出た場合の対応

- (1) 濃厚接触者の洗い出し
 - ・ 行政との連絡調整も検討
- (2) 濃厚接触者の抽出 および集団発生に対するリスク管理
- (3) チーム運営委員は北信越フットボール事務局に状況を報告すること
- (4) 事務局は状況を確認したうえで、北信越社会人連盟と今後の対応を協議すること